

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2018年3月、福島県南相馬市に、援助マリア修道会南相馬修道院が設立されました。東日本大震災後、双葉郡楢葉町の聖母訪問会に続いて、福島県浜通りで二番目となる修道院設立です。福島で「神のみ国の実現のために、小高区の人々に寄り添い、共に生きていきたい」との決意をもって歩いておられる3人のシスター方をご紹介します。

次にご紹介するのは、カリタス石巻ベースで行われた七夕祭りです。被災者の方々とボランティア、スタッフが共に生き生きと、祝った七夕の模様を、お楽しみください。さらに、毎年、石巻ベースに援奏のために来てくださる「すすきだ音楽隊演奏会」の様子をご紹介します。音楽を通し、少しずつ明るさを取り戻してこられる被災者の方々の姿が見えたことは、喜びでした。

このまま放っておくことはできない—皆が共に暮らす家にいる
援助マリア修道会 南相馬修道院を訪ねて
仙台教区サポートセンター 長谷川 昌子

「先日、久しぶりに本部修道院に帰ったとき、出会ったシスターから『Sr.吉岡、すっかり東北のおばさんになったわね』と言われて、その言葉を聞いたとき、南相馬市の人に近づけたことを、つくづくうれしく感じました」……そう語る Sr.吉岡知子がカリタス原町ベース（現カリタス南相馬）のボランティアに入ったのは、2014年9月のことでした。その時から丸4年の年月が経ちました。

彼女が福島に関わることになったのは、日本女子修道会総長管区長会が企画した「福島いのちの旅」に参加した1週間の出来事がきっかけでした。そのとき彼女の心を横切った思いは「このまま放っておくことはできない。日本人一人ひとりがそれぞれのスプーン1杯の何かを差し出す必要を感じました」という思いでした。修道会の仕事を果たしながらも、そのことが、いつも心の中にありました。

「2014年、サバティカルの時を過ごす機会をいただき、6カ月間は福島でボランティアをすることとなり9月14日、福山を出発いたしました」と語ります。



JR 常磐線 小高駅舎 (福島県南相馬市小高区)

※小高駅は、2011年3月11日東日本大震災（福島第一原子力発電所事故）により休止。その後、2016年7月12日 JR常磐線 小高駅—原ノ町駅間（下り方面）の運転再開に伴い、営業が再開された。また、2017年4月1日浪江駅—小高駅間（上り方面）の運転が再開された。

「私の与えられた期間は半年でした。複数の視点から現状を把握するために、福島のいろいろな場所を見る識別の半年となりました。しかし、半年が過ぎようとした時、私の出した結論は『このままではまだ帰れない……』ということでした。そして識別の結果として、支援活動の拠点『カリタス原町ベース』にそのまま残り、ベースのスタッフが働きやすいよう協力させていただき、ということを選びました。そのため、長上に延長の許可を願い、受け入れていただきました。本部に帰る機会があるたびに、可能な限り食卓での分かち合い、DVDなどを見せて、体験したことや現状を分かち合う努力をしておりました。少しは理解を得られたのかな、とも思いました。こうして、『道半ば。途中でやめるわけにはいかない』という思いで、今に至っています」。



震災後、駅前に掲げられた観光案内マップとロータリークラブの石碑

南相馬市小高区は、福島第一原子力発電所から、20キロ圏内にあり、避難指示解除準備区域に指定されていました。2015年後半に「2016年から、小高区に出されていた、避難指示が解除される」という発表がありました。

Sr.吉岡は、カリタス原町ベースから、「おだかぶらっとほーむ」の立ち上げに参加協力し、その後も週1回、この小高駅の近くの「ぶらっとほーむ」で、訪れる人たちと話しながら、小高に今必要なことは何かを探しながら識別の歩みを進めてきました。

そこで、小高の人々が語られたことは、「小高はゼロからの出発です。まったく新しい生き方をしなければならないときです。そのために協力してほしい。」「こういう状況なので、通りすがりのボランティアでは難しい。」「ともに住んでくだされば、寄り添いの第一歩です」ということでした。

「ちょうどこの頃、私たちの姉妹たちからも、『福島に修道院を造らないの』、という声が上がっていました。私の心には、次第に小高に数名で住む、ということの必要性を感じ始めていました。『新しい生き方をするために、小高に住んで、小高の人と関わって生きたい。しかし、私は今、カリタス南相馬で働いている。だから、複数の人が必要』。『修道会のミッションとして今呼びかけられているのなら、ここに共同体ができるかもしれない』と希望を感じ始めました」。

「2018年2月、私たちの修道会の総長から『南相馬修道院』開設の許可が会全体に知らされ、地区長をはじめ援助マリア会の会員の多くから祝福と励ましのメッセージが送られてまいりました」。



建物入り口の塀にある「援助マリア修道会」と書かれた表札

その意味で、カリタス南相馬は、神の国の現れ、お互いが相手を大切に思い、行動するすごいところ！ 『ともに暮らすみんなの家』です」。

「私たちの修道院もこのような『家』でありたいと思っています。『震災は大変でした。しかし、それがあったから、みんなに出会えた。それがあったから、生活は変わった』。出会った人の中に、このように感じて、このように表現してくださる人がいます。

私たちは、ここで、神の国の広がり、神の国の実現のためにみなさんと寄り添い、ともに生きていきたいと思っています」。



援助マリア修道会 南相馬修道院の入口にある掲示板
掲示板には、原町教会や南相馬修道院のミサのお知らせなどが掲示されている

総長は、3.11の時、ちょうど日本に滞在中、長崎修道院で東日本大震災のことをつぶさに知り、またフランスの会員の一人はチェルノブイリで奉仕した体験もあり、福島がどういう状況に置かれているかをよく分かっていました」。

新しい修道院の開設許可を感謝しながらも、家を見つけるのが大変でしたが、2018年3月19日、聖ヨゼフの祭日に、幸田和生司教によって家の祝別式と修道院開設の感謝のミサが行われました。震災の前年にリフォームされたこの家ですが、被災に遭っており、加えて、7年間、人が住んでいませんでした。人が住んでいなかった家がどのような状態か想像できるでしょうか？

南相馬修道院のために派遣された会員は、Sr.吉岡と Sr.藤岡薫枝と Sr.馬場智恵子です。

Sr.藤岡は長年「福山暁の星小学校」に勤務した後、1年間東京に派遣され、南相馬に時折ボランティアに参加した経験を通して、「来て見なさい」というチャンスが与えられました。3月1日から修道院開設の準備のために、東京と小高の往復の生活をし、4月1日から小高の住民となりました。

Sr.馬場は、4月15日に小高に到着。20年間教会学校、特に、初聖体準備の子どもたちに関わってきました。「Sr.吉岡から『来てみたら？…人生観が変わりますよ』と言われ、来ました。私は、健康に自信がなかったのですが、こちらのきれいな空気によって新たな力をいただいています。小高の印象は、歴史があり、人がみな、伝統・文化を大切にしているのを感じます」。



左から Sr. 吉岡 Sr. 馬場 Sr. 藤岡

今、メンバーの3人のうち、Sr.吉岡は、毎日カリタス南相馬で事務的な仕事に従事しています。他の2人は、毎週火曜日は「おだかぶらっとほ一む」に行き、月3回水曜日、午前中、小高区のサロンに参加し、そこで、知り合った人々を訪問し関わりの絆を深めています。

「カリタス南相馬は、所長の Sr.畠中千秋を中心に、彼女のすべてを受け入れるおおらかな心と、人々を受け入れる姿勢は『神の国はここから始まっている』と感じます。いろいろの宗教の人、老若男女……、これは神の国の実現だと感じます。教皇フランシスコのことばが、ここに実現しているのを感じます。世界が福島に目を注いでいる——神のみ旨が見え始めていると感じます。



修道院内の聖堂 カリタス南相馬の目標・モットー(写真右)も置かれている
ここで、シスターたちは一日を奉献し、力を得て活動に励んでいる

「カリタス南相馬」は、
① 東日本大震災と原発事故により困難な状況におかれている人々を支える地元の活動に協力し、
② 福島の現実とそこに生きる人々の思いを世界中の人々につないでいく拠点です。
1) 地域の人々と交わりを大切にし、地域の復興に協力します。
2) 各地からのボランティアを受け入れ、地域へ派遣します。
3) 福島第一原発から25kmにある場として、共に祈り、学びます。

カリタス石巻ベース七夕まつりにボランティアとして参加して
カトリック塩釜教会 佐山 淑子

7月7日、昨夜来の雨で、ちょっと心配なカリタス石巻ベース七夕まつりでしたが、霧雨に変わり、11時前にはすっかり晴れて青空が顔をのぞかせてくれ、ホッとしました。

当日は、室内のいつも「お茶っこ」に使うオープンスペースと、建物裏の庭に、6つのブースが設けられていました。①カレーライス、②フランクフルト、③玉こんにゃく、④ジュース・ラムネ、⑤金魚・スーパーボールすくい、⑥輪投げと各ブースそれぞれに番号がふられておりました。

七夕祭り参加者は、自分の行きたいブースを自由に回ることができ、各自が持っているプログラムの裏についている番号の所で判をもらい、カレーライスを食べたり、金魚すくいをしたりして楽しんでいました。

当日は土曜日だったので、大勢の子どもたちの参加を期待していましたが、来てくれた子どもたちは、6人だけで、他の50人の参加者は、ほとんどが大人の被災者の方々でした。

私は受付係をしていたのですが、そこで知った事実に感動をおぼえました。それぞれのブースの準備は、スタッフといつもベースを利用している常連の被災者がタッグを組み、共に力を合わせて、七夕まつりを盛り上げ、成功させるために頑張ってくれたとのこと。従来と異なり、今年は常連の被災者の方々とスタッフの絆の深まりが強くなったのを感じました。



ボランティアや参加者の皆さんはじめ、多くの方のご支援・ご協力のおかげで、誰もが楽しめるお祭りになりました

皆が主役！カリタス七夕まつり

カリタス石巻ベース

今年の七夕まつりは、いつも以上に、みんなと一緒に笑って楽しめる内容にしたい七夕まつりの企画を練り始めたとき、スタッフミーティングの中で課題として挙がったことです。例年、七夕まつりの最後にベース長対参加者の皆さんでじゃんけん大会を行い、優勝者には、お米や乾麺などを賞品としてプレゼントしていましたが、震災から7年以上が経過した今回は、物をさしあげるのではなく、祭りそのものを皆さんに楽しんで満足してもらえる工夫をしよう、と話し合いが続ききました。

6月に入り、オープンスペースで七夕飾り作りを始めると、「手伝うよ」と、利用者の皆さんが次々に加わってくださいました。笹竹は、石巻カトリック幼稚園にご協力をお願いし、先生のご実家から届けていただきました。ボランティアも交えて、楽しい飾り作りが進み、一か月ほどで、笹竹が重そうにしなり、オープンスペースの壁も埋まるほど、たくさんの七夕飾りができました。



みんなで踊って盛り上がった七夕まつり♪ボランティアさんには花笠ではなく皿が!?



「じゃんけん列車」 優勝賞品は…スタッフとハワイ旅行気分で記念撮影!

祭りが近づいたある日、毎年のように楽器演奏で盛り上げてくれる方から、今年には行けないかもしれない、という残念な連絡が入りました。そこで、ラジカセで音楽を流そうか、とスタッフが相談していると、利用者の皆さんが口々に「民謡が得意な〇〇さんに歌ってもらったら」「〇〇さんには着物着て踊ってもらわなくちゃ」「みんなで盆踊りやるか!」と盛り上がり、その日の午後にはオープンスペースで踊りの練習が始まりました。スタッフ一同、そのパワーに圧倒されつつ、「これは、楽しいお祭りになるに違いない」と確信しました。

そして迎えた当日。仙台、塩釜地区の「チーム・カリタス仙塩」、「心の港」をはじめ、30人近いボランティアが来てくださり、およそ50名のお客様を迎えて、にぎやかに七夕まつりが始まりました。前日にオープンスペースの常連の女性たちの手も借りて下さり、玉こんにゃくやカレーライスも大好評、「3杯食べた」という方もいるほどでした。

お昼からは、オープンスペースでお待ちかねの歌と踊りの時間。日本舞踊の心得があるMさんと、民謡のお得意なIさんが浴衣姿で登場し、皆さんの先頭に立って「大漁唄い込み」や「花笠踊り」を踊り、地域の民謡や、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」に節をつけて披露してくださいました。「あんたも踊れ!」と次々にお客さん、そしてボランティア、スタッフも踊りの輪に引きこまれ、オープンスペースは大にぎわいでした。

祭りの最後、今年は「じゃんけん列車」(ジェンカ)を行いました。ボランティアのアコーディオン演奏に合わせてステップを踏み、音楽

が止まったところで、近くにいる人とじゃんけんをして、負けた人は勝った人の後ろにつきまします。これを繰り返すと、全体が長い列車になり、勝ち抜いて最後に先頭になった人が優勝です。お客さんもボランティアも全員参加で、一緒にステップを踏み、列車を作っていくと…なんと優勝は仙台からのボランティアKさんに決まりました。そしてスタッフが考えに考えた優勝賞品は「ハワイ旅行気分記念撮影」!フラガールに扮したスタッフが会場に飛び出すと、お客さんたちからは悲鳴にも似た歓声と大笑いが起きました。歓声の中でKさんを囲み、「アロハ〜!」のかけ声でパチリ。さらに、全員で記念撮影を行い、笑いのうちに閉会となりました。

今回の七夕まつりは、ベースから出た小さな企画の種を、石巻の皆さんの元気な力で、何倍にも大きく、楽しく育てていただけたように思います。支援する側、される側という立場など関係なく、みんなと一緒に楽しんだ一日でした。来てくださった皆さん、一緒に準備をしてくださった皆さんに心から感謝申し上げます。



ハワイ旅行気分の余韻に浸りながら、みんなで集合写真撮影♪

すすきだ音楽隊「にこにこコンサート」

カリタス石巻ベース 濱山 麻子

台風13号の進路が気になる8月6日、カリタス石巻ベースに、すすきだ音楽隊の皆さんが来てくださいました。すすきだ音楽隊と石巻ベースのお付き合いは2016年から、今回で4度目となります。毎回、編成が異なるので、それも楽しみです。今回は、音楽隊隊長でヴァイオリンの薄田真さん、マリンバのすすきだ真樹さん、ピアノの夢沼明子さん、地歌三味線の上田恵子さんによる演奏会となりました。

活動初日の8月7日は、東松島市の野蒜ヶ丘中央集会所での演奏会でした。野蒜ヶ丘は去年、街びらきが行われた新しい地域です。以前カリタスがお茶会にお邪魔していたひびき仮設から、転居された方がおおぜいいらっしゃいます。ひびき仮設から移られた方が「みんなに会えると思って来たよ」と、ワカメをたくさん持って来てくださいました。



すすきだ音楽隊の皆さんは、聴きにいられた方が一緒に手拍子をして参加しながら楽しめる企画やクイズも準備してくださっていました

音楽隊のリハーサルが終わるころ、自治会役員の男性たちが、会場の椅子を並べてくださいました。また、町内放送で2度呼びかけをしてくださり、「テレビを見てゴロゴロしてたけど、放送を聞いて飛んできました」という方や子どもさんなど、16名のご来場となりました。

プロの演奏家による、普段なかなか間近で見ることができない楽器の生演奏、豊かな音に、1曲目から皆がぐっと身を乗り出して聴いていました。曲と曲の間には、「誰もが知っているマリンバの名曲です」と「きょうの料理」のテーマを演奏してくださり、「このヴァイオリンの素材はなんでしょう？」とクイズの出題もあり、和やかな時間が流れました。地歌三味線の演奏を聴いて、「これ聴きながら一杯やりたくなかったな」「大吟醸だナ」と嬉しそうな男性たちも…。最後は「幸せなら手をたたこう」の「三々七拍子バージョン」で、前奏と間奏に、拍手で三々七拍子をするものでした。「最後の三々七拍子の後、何か掛け声をかけましょう。何がいいですか？」と言うすすきださんに、「だっちゃ！」と声上がり、皆で大笑い。盛り上がり、みごと「だっちゃ！」と決めることができました。

こちらの集会所では、体操教室、カラオケ、男性の会など、様々な集まりが行われているそうです。数日後には、野蒜ヶ丘全体での初めての夏祭りも予定されているということでした。入居開始から、早い方で1年が経っていますが、地域の皆さんが新しい街での生活になじんできている様子を感じました。去年のクリスマス会でお会いしたことを覚えてくださった方や、「ひびき仮設に来てくれていたボランティアの〇〇さんは元気？」と聞いてこられる方もいて、何かの形で、これからも顔の見えるお付き合いができたと思っています。すすきだ音楽隊の皆さんも、「ご縁ができたので、また来なくては」とおっしゃっていました。

翌8日は、石巻ベースでの演奏会でした。ベースでは4度目の開催なので、すっかりおなじみです。オープンスペース常連の方々のほか、音楽隊のつながりで、地元の小学生たちも来てくださり、会場は満席。この日も、皆、集中して演奏を楽しんでいらっしゃる様子でした。アンコールでは、おなじみの「青葉城恋歌」の大合唱となりました。

終演後のお茶っこでは、お客様たちが、「素晴らしかった！」と嬉しそうに演奏者の皆さんに声をかけたり、一緒にお茶を飲みながら、自らの被災経験や、友だちに誘われてカリタスに来るようになったことを話された方もいたそうです。音楽隊のメンバーは「去年、一番後ろで、表情を変えずに座っていた方が、今日は一番前でニコニコして聴いてくださっていました」「日頃のオープンスペースの継続が、皆さんの力になっていると感じました」と分かち合ってくださいました。

音楽が、集まった皆さんの心の栄養となり、素敵な夏の思い出になったと思います。すすきだ音楽隊の皆さんに、心から感謝申し上げます。



素敵な音楽を聴いて穏やかな笑顔の皆さん（ベース演奏会後の記念撮影）

西日本豪雨災害募金のお願い

西日本豪雨災害1ヶ月半以上が経過しましたが、被災地ではまだ手つかずの場所も多くあるようです。

カリタスジャパン及び各教区の募金窓口は、以下の通りです。また、各教区内の支援活動に関する情報などは、それぞれのHPをご覧ください。

【募金受付先】 ※募金の使途がそれぞれ異なります。

◇カリタスジャパン～災害救援のための募金～

(被災地の教区と連携して推進する救援活動のために活用されます。)

・募金受付口座

郵便振替口座番号：00170-5-95979

加入者名：カトリック中央協議会カリタスジャパン

※通信欄に、「西日本豪雨災害」とご明記ください。

◇広島司教区～教区内の被災された信者・教会施設のための募金～

(広島教区内の被災された信者・教会施設への支援のために用いられます。)

・受付期間：11月末日まで

・募金受付口座

郵便振替口座番号：01310-0-16760

加入者名：カトリック広島司教区

※通信欄に「西日本豪雨災害支援」とご明記ください。

◇高松司教区

～高松教区サポートセンター支援活動費のための募金～

・募金受付口座

郵便振替口座番号：01650-7-13208

加入者名：カトリック高松司教区

※通信欄に必ず「TSC」とご明記ください。

【支援活動に関する情報】 ※随時、情報が更新されています。

○カトリック広島司教区情報サイト

<http://www.hiroshima-diocese.net/category/saigai/>

○カトリック高松教区ホームページ

<http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/>



床下の土砂撤去作業後の様子（岡山県）